

第5回 日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会

令和5年(2023年)5月29日(月)13時30分～

日野町役場 防災センター研修室

~~~~~

### ○子ども支援課長

皆さん、こんにちは。第5回日野町幼児教育保育の在り方検討懇話会に、ご多忙の中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

懇話会も昨年度末で中間報告をさせていただきまして、今年度(令和5年度)は、最終報告に向けてまた皆さんのお力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、4月の定期人事異動によりまして日野町役場の体制も替わりましたので、異動になった者の自己紹介をさせていただきたいと思います。

(自己紹介)

それでは、規定に基づきまして進行を佐々木委員長、よろしくお願いします。

~~~~~

○委員長

皆様、お足元の悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。それでは、本日の懇話会を始めさせていただきたいと思います。

今日の議題ですけれども、中間報告のお話を前回させていただいて、これ以降の取り組みに向けて皆様とお話したいと思っています。

お手元の次第、「2. 中間報告について ワークショップから見えてきた子育て環境の将来像」です。前回のあと、わかった補足情報の紹介をさせていただきます。

次に「3. ワークショップ 町民シンポジウム(仮称)に向けた意見出し」について、前回の懇話会で少し出たかと思うのですが、今、非常に、幼稚園・保育園の話も含めて子育て環境のいろいろな課題が見えてきて、たぶんほとんどの町民の人はそこまで思っていない。なので、町民の人とそういったことを共有する機会が必要だという話はしたと思うのですけれども、それを具体的にどんなふうやっていったらいいのかというアイデア出しをしたいと思っております。ワークショップ型でやります。

なぜかと言うと、そのやり方は無数にあると思うのです。今日のワークショップに関しては、言った人が絶対やらなければいけないとかいう、そういう縛りはなしで、アイデアをとにかくみんなを出し合って、いかに課題に向けたアイデアをみんなを出し合うかということ、一問一答式でやっていくとあまり、ワークショップ的に話も難しいので、今日はいつもの懇話会でそういう形でやりたいと思います。

最後、「4 現地調査・今後のスケジュールについて」を、私からご紹介させていただきます。

きます。



○委員長

まず、数か月経ちましたので、振り返りと補足情報をパワーポイントで説明させていただきます。

まず、大きな目標としましては、幼稚園保育園を含めた地域全体で子育てが行われることから、幼保園をとりまく地域全体の子育て将来像をみんなで検討しましょうと。その中で難しさというのは、幼稚園・保育園だけ議論していても、子どもの人数は強制的に改善するものではないし、皆さんの思いも同じでそう簡単な話ではないです。

あと、どういうふうな周囲の役割分担をしていくのか。日野町内で担わなければいけないところはどこか、もしくは各集落で担う範囲はどこか。例えば、パンダが見える場所とかイルカが見える場所が遠方であってもそんなに困らないけれど、小児科というのは近くにないと困りますよねという、そういう話です。全部が全部、日野町が持たなければいけないという話ではないはずだけれど、とはいえ、日野町になくっては困るもの、各集落になくってはいけないものがあるかどうか、そのあたりも考えていかなければいけないし、やはり先生方にお話を伺っていくと、散歩に連れていける場所であったり、大人になってまた日野に帰って来たいと思えるような子ども時代の思い出がつかれるか、そういったところが今後、役割分担で考えていかなければいけないと思っております。

ポイントですけれども、人が足りていないということが本質的な問題なのではなくて、子どもについての新たな課題や家庭支援の増加もあり、子育て環境全体の課題を町民の皆さんと共有しないと、行政が何とかしてくれるだろうという次元ではないというところを確認させていただいたかと思えます。とにかく先生の数さえ増えていれば何とかするという話ではないということです。

これが前回の振り返りと、先生方のワークショップから出てきた話のまとめですけれども、やはりポイントになってくるのは、「人が足りていない」というところもですけれども、やはりコロナについては落ち着いたと思ったら、今度はインフルエンザが流行り始めたり、新たな感染症も出てきていますので、そういった制約。家庭支援も増加がどんどん起きている。子どもに対する新たな課題がどんどん増えていっているということで、「人員の加配」とか「待遇の改善」が、全くされてないわけではないけれど、結局のところ、「新たな課題」から「加配の改善」を引き算すると、結局、「現場の疲弊」感は全く変わってないというところを勘案して考えていかなければいけない。その中には、「時間が無い」、「行事に追われる」、「書類に追われる」等あるのですけれども、「人が足りていない」というところだけ見てしまうと、一番の本質は周りにあるわけですので、そこを見ながら対処しなければいけない。というところが前回、保育所ワークを踏まえて皆さんと共有させていただいたところだと思います。

私が作成した「保育士数の現状」という資料の表を見ていただきたいのですけれども、

保育士の数が足りていないという話の現状把握をするときに、私は「志願倍率」とか「実質倍率」がすごく気になるのです。志願倍率をいかに維持するか。なぜ志願倍率の話になるのかというと、倍率が高い方ということは志願者の中から特にいい人を選べるということになるわけです。志願倍率が1を下回ってくると、全員を採用するのか、それとも、この方は採用してもどうかなという場合はやめておこうという話になってくるので、倍率の話は大事だと思ったので、あえてつくってみました。ですから、これは、元の数字は日野町さんからいただきましたが、私が作成した資料です。

「正規職員」は、現状の保育士数が45人で加配が3人、必要な保育士数はそれぞれ46人と0人ですけれども、令和4年度の採用枠は3人でした。それに対して応募された方は7人です。これを志願倍率に直しますと2.3倍です。あまり華々しい数字ではないです。しかも、結局、辞退者が出たので1人しか採用されていません。まず、正規職員がこういう状況です。

もっと大変な状態なのが「フルタイム職員」です。現在19人、加配は4人ですが、必要な保育士数は49人と加配22人です。令和4年度採用枠30人で応募者数2人、志願倍率に直すと0.06倍という、かなり困った数字でございます。大学の入試だったら、その大学は終わっていると思います。そういう数字になっております。結局、応募した人が全入しているので、実質倍率は1.0になります。正規職員もそうですけれども、フルタイム職員を募集しても、こういう散々たる状態であります。しかも、フルタイムに関しては待遇の改善を図っていただいていると町からも伺っておりますけれども、まだそういう状態です。

「パートタイム職員」の見方について補足説明しておきたいのですが、現状の保育士数は46人、加配29人ですが、必要な保育士数でいうと8人と0人です。この数字の乖離は、フルタイム職員が足りないからパートタイム職員を入れているからです。もし、フルタイム職員が49人いたら8人で済んでいるのですけれども、フルタイム職員が19人しかいないから、パートタイム職員を46人入れているという状態です。ですから、パートタイム職員の必要な保育士数は、正規職員数・フルタイム職員数によって変動します。正規職員が足りなければフルタイム職員、フルタイム職員が足りなければパート職員ということで、理想の数字はこうですよということですので、今のパートタイム職員数が採り過ぎていないということではないということにご注意ください。応募者数が3人で、内定数も3人、実際入ってきた方が3人ですので、実質倍率は1.0です。採用枠数は変動するので、志願倍率は弾いておりません。この数字をご覧いただければ、まずい状況だということはお判りいただけるかと思います。

もう1つ、どんなところがあと問題なのかなということで、次の表は桜谷こども園の状況です。第2園舎の0～2歳児は23人、保育士数は7人で内加配は2人、それ以外にフリーが2名です。第1園舎の3～5歳児は56人、保育士数が9人で、加配は6人、フリーが5人です。

同じ園なのに2つに分かれていたら、その分大変だとずっと思っていたのですけれども、実際に今回いろいろ調べていただいて、私が集計した感じでいうと、もし現状の桜谷こども園を敷地面積は変わらず1つの園舎にまとめられたら、0～2歳児の収容人数は42人になります。保育士を4人増やすだけで園児数を19人増やすことができるということです。現実には建て替えはどうするのかとか、そういう話はたくさんあるのですけれども、2つに分かれていることによる弊害はあるということで、あくまで参考という形で数字を出してみました。

これの発展型として、敷地面積が広げられて、保育士数がさらに増やせれば、1か所で受け入れられる子どもの数は増えるということになります。実際にこれができるかどうかというのは別の問題ですけれども、分かれていることによって、保育士の人数がこれだけ必要になったり受け入れできる子どもの数はこうなっているということを共有したかったので、つくりました。

最後ですけれども、「待機児童数の見直し」、令和5年度末、出生数があって、実際どれくらい待機児童が発生してしまうのかという試算の数字です。町の方でつくっていただきました。0歳児・1歳児・2歳児というのは、出生数があります。そのうち年齢別の入所希望率というのがほしいこのくらいだろうという数字があって、それで実際に希望する予定の人数が予想されています。あくまで予想です。それをそれぞれずっと入れ込んだ時に、どれくらい待機児童が発生するか。「不承諾者数」というのがあるのですけれども、これは入れなかった人のことで全部で75人くらい発生してしまいそうな状態です。

ほかにも、園舎が築30年を迎えるということや、先生方の待遇であったり、いろいろ問題もありますが、今日の時点で間に合った追加情報はここまでですので、ご参考にしていただければと思います。

○子ども支援課長

追加説明させていただきます。最後の表についてですが、最終、「不承諾者数」が75というのは、令和5年度末の想定ではあるのですけれども、これは第1希望と言いますか、この園に入りたいけれども、実際には園の受入れができないので一旦不承諾として通知を出させていただく。その後、入園調整をさせていただいたり、また育休の延長が可能であったりということで、最終的には昨年は5人の待機児童が出ました。今年は4人の待機児童となっております。希望をしても入れる園も預かってもらう施設もないという状況の方が今年は4人ということになっております。社会復帰を目指して、今、低年齢児の受入れを国も力を入れるということにもなっているのですが、実際には、これだけの方々については一旦家で見えていただくとか、ほかの園でということになって、日野町の現状としてはこういう状況になっているということでございます。

○委員長

ありがとうございます。ここまででご質問等ございますでしょうか。

(なし)

○委員長

では、次に、「町民シンポジウム（仮称）に向けた意見出し」でございます。

「町民シンポジウム」という名前はあまりいいとは思ってないのですけれども、何か名前をつけないと議論がしにくいので、とりあえずシンポジウムと書きました。〇〇集会なのか、〇〇の会かも知れないし、結構、ネーミングは大事だと思っているのですが、要は、我々がしていくことは、これが絶対、全町民が賛同できる1つのものをつくるということよりも、いかに皆さんにとって選択肢が増えるかということだと思っています。そこで、今日は皆さんとアイデア出しのワークショップをしたいと思っています。

幼児保育の現状や子育て環境の話を、いかに町民と共有するのか。私が先生方から受けた話もそうですし、保護者のお母さん方といろいろな話をさせていただいたこともそうですし、なかなか、当事者以外の方は行政に投げとけば何とかかなると思ったりしていますが、本当にみんなで考えていかなければいけないことです。国もいろいろやろうとしていますけれども、子どもの出生数の減少なんて政策で決まって何とかする話ではないです。

あと、大事なことは、賛成反対の2択で考えるのではなくて、私としては、一緒に悩んでくれる仲間を増やしたいのです。第一にはこの委員会の皆さんだと思っておりまして、今日は皆さんにワークショップ形式でぜひご意見を出していただきたいと思っていますのは、まず、どんな人がしゃべるか。一人の人がしゃべるのもありますし、私にあれやってこれやってというのは、言ってもらったら頑張りますし、もしくは、どこかでこういう先生がいないだろうかと探すのもあります。日野町の役場の方に語ってほしいことがあるかも知れない。もしくは親の立場として語りたいたいことがあるかも知れない。まず、どんな人がこの場にいたらいいかということをご皆さんから出していただきたいです。

そして、誰に対してか。呼ぶ対象ですね。もちろん町民全員が対象ですけど、誰でも来てくださいというのはすごく参加しにくいじゃないですか。やはりこの辺だけは抑えたいなということをご今日アイデアを出していただきたい。

あと最後、どんな話をするのか。いろいろなやり方があるので、みんなでアイデア出ししたいのですけれども、私がしゃべり、有名な方を連れてきて講演をするというのはよくあるパターンです。それから、例えばテーマごとに机を囲んでしゃべる場をつくる。幼稚園のお子さんがある方々で1テーブルつくったり、集落単位で公民館活動をしている人たちが集まって、分科会みたいな形でやってみるとか、みんな一緒になってワイワイやるというのもありでしょうし、やり方は無尽にあると思うので、そのアイデア出しをこれから2テーブルに分けてやりたいと思っています。

何度も申し上げますが、今日はアイデア出しですから、言った人に責任はかけません。アイデアが出るのが大事なので、言ったから私がやらなきゃいけないということだったら言いにくいでしょう、だからその縛りはやめたいと思います。まず今日はたくさんアイデアを出して、その中から私がまとめて、何かいい場がつかれないか考えたいと思うので、それを私一人の頭で考えても限界がありますから、みんなで出し合いたいと思っ

ております。

大変恐縮ですが、机を合体させていただいて、2テーブルで話し合いをしたいと思います。

(ワークショップ)

○委員長

今、子育てがどういう状況なのかということをもう少し地域の人たちに知ってもらうことを通じて、大事なのは、自分ができること、例えば我々は今、子育て環境をよくしようという話をしているのですけれども、普通に住んでいる人たちは、どうやって子育てに協力できるのか、例えばこういうことだったら私たちが協力できるなど、例えば声を掛けるとかいうこともそうなのかも知れないのですけれど、そういったことが何か見えるといいよねという話がありました。

あと、お話を伺っている中で思ったのですけれども、公民館をめぐっていると、各集落で子育て関連の事業をされているところがいくつかあるのですが、個人でやっていることもあれば、公民館でやっていることもあれば、集会所を使っているところもある。そういったことを日野町全体もっと共同した方がいいのではないかと。ひょっとしたら違う集落の取り組みが全然知られてないこともあるし、そういうやり方もあるんだということで、サポーターを増やすことにもなるのではなかという話で、今まで子育ての課題の話をたくさんしてきたのですけれども、ポジティブにできているところはちゃんと評価できた方がいいのではないかという話がありました。

あと、「場」のつくり方ですけれども、年齢別に公園で遊ぼうとかいう会を開いて、そこで集まったお母さん方と何かするとか、わたむきホールとかで遊ぶところを作ってみるなど、子育てを終えた層から見ると、日常を抱えながらも何か手伝えるところが見えたらいいということもありますし、子育て中の人たちから言うと、情報をもっと欲しいという意見もあるし、子どもにもっといろんなことを体験させたいのだけれど、そういう情報がなかなか得られない人もいるらしいので、そういったところがつながったらいいなというお話でございました。以上になります。

○委員

全然まとまってないので、最初にお詫び申し上げます。

まず、私たちがこの1年かけて話してきたことを、町の皆さんに広く知ってもらうという点で何をしていたらいいかという投げかけをさせていただきました。

どういうふうに伝えるかという、広報紙の活用が、全戸配布だし一番効率的ではないかということ、あと、字で読むより映像などで見られた方が入ってくる人もいるという話の中で、既に町が持っている YouTube など動画、または他の SNS を使って、これまで私たちがここで話してきたことをちゃんと発信していくことが必要だろうと言っていました。運営側としては、なるべく早い目に今年のまとめを皆さんに見てもらおう形にまとめなければいけないなと痛感しているところです。

そのまとめたもの出し方の例として、昨年ワークショップに参加していただいた各園の皆さんや公民館に、掲示物のような形で貼っておいてもらうという形でも案外見えてくれるものだという事もお聞きしたので、内容としては広報とか同じものでもいいのですが、いろんな場所で目にしてもらう機会を増やしていくのが大事ではないかという意見をいただいています。それが無いことには、町民を集めてのシンポジウムなどの場を持ったとしてというところで、全くそのとおりにかなと思っております。

そんな中でも、例えば、誰か呼ぶとかいうことになったら、明石市長などを呼んだらネームバリューもあるし、日野町は子育てに本気なんだなということがわかるから、1つのパフォーマンスとしてそういう方を呼ぶということもありかなという話も出ています。

でも、それをしていくにしても、町としてどうお金を子育ての分野にかけて、何をしていくかという方向性がしっかり決まらないことには、というところはあるので、そのことが今年懇話会としてこのあと他府県の事例を見に行こうかという話が出ているのですけれども、日野町としてどのくらいまでできるのかということ踏まえたうえで視察しに行かないと、取ってくるものも取り切れなかったり、もったいないことにつながるのではないかというご意見もいただきました。

このテーブルは子育て世代の女性が多かったのですけれど、日野の中での今の一時預かりやファミサポの利用の状況がどうなっているかということ、私たち懇話会としても昨年1年の中であまりそこは見えてきてなかったなということに気づきました。一時保育やファミサポなど、ちょっと預けるということが町の中でもっと充実していったら、1歳から保育園に入れなくちゃというところが、もしかしたら少し状況も変わってくる可能性があるのではないかという話が出ていて、そこを充実させるということが1つ、ちょっと明るいことが見えるかなということ、今日の話の中で感じたところです。

あと、この1年いろいろ話をしてきて、どんなテーマが印象的だったか聞いたら、保育士さんの現場の声というのは、結構知らなかったところが多かったとか、保育士をされていた方にしたら、私たちが思っていたことはなかなか届かないし、言う場もなかったなと思いましたがという声も聞いたので、保育士さんの現状、保育園の現状というのがより開かれることも、今回の話をしていく中で重要なことだなということを改めて気づいたところです。以上です。付け足しはありますか。では、ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。私もまだまだ宿題が残っていることを痛感しました。

今日、2つのテーブルで話をいただいて、それをもとにどんな場がつけられるかという叩き台を私の方で検討していきたいと思っております。どういう仕組みでなど、そこまでいけないのですけれども、そのあたりを考えていこうと思っております。

~~~~~

## ○委員長

次に、現地調査についてです。今のワークショップのまとめの話に関連しているので、委員長としての考え方を先に述べさせていただきますと、町としてどこまでできるのかを先にはっきりさせると、選択肢がそこに絞られてしまうので、もちろん私は日本全国のいろいろな取り組みをご紹介いただいたので、見てくることによって、町が取り得る選択肢を増やしたいと思っております。

ただ、もちろん、うちの町でできないことを聞いてきてもしようがないとおっしゃることはごもっともなので、極力、私一人が行くのではなくて、町の役場の方にも一緒に行っていていただいて、行政的な視点から、もし日野町で取り入れるとしたらどういうことがハードルになるだろうか、そういったことも一緒に見ていただきたいと思っておりますし、近場に関しては、平日になると思うのですけれども、日時が合いましたらぜひ懇話会の皆さんも一緒に来ていただだけませんかという話をしたいと思っております。

今、具体的に、相手方にアポをまだ取っていないので場所の名前は伏せさせていただきますが、どんなところを考えているかというと、地域ぐるみで子育てをしている自治体であったり、経済的支援、子育て支援、在宅子育て家庭の女性、具体的な支援助成策をやっている自治体、これは事例を専門の方からご紹介いただきました。

私自身が聞いてきたのは、自治体自らが、撤退する公立園に代わって保育園をやっているところ、同じく私立の保育園が撤退するところを町が引き継いだ例がありまして、簡単な話ではないはずなんですけど、恐らく思いがあってやっていたらと思うので、こういった話を聞いてきたいと思っております。

行政側が取り入れる選択肢を増やすのはもちろんですが、自治会側、これからいろんなことが起こる中で、なくなってすべて終わりという話ではなくて、どんな選択肢があり得るのか、なるべく増やしていけるような話を聞いていきたいと思っております、これから打診をかけていって、皆さんとスケジュール調整ができたならと思っております。

ちなみに、現状想定している一番北は青森です。南の方は熊本県などなかなかお誘いしても難しいところがあるかも知れないのですが、近場でまとまりましたら皆さんに声掛けしたいと思っております。これから視察に出かけて行って、その結果報告を皆さんにさせていただけたらというのがここからのスケジュールになっております。

~~~~~

○委員長

時間がまだありますので、その他事項、皆さんから何かありますでしょうか。

○委員

その他ではないのですけれども、視察に行くのは、行政に視察に行くのか、園に行かれるのですか。

○委員長

両方です。

○委員

その時に、先ほどもしゃべらせてもらったのですけれども、行政としてどういうふうにしていくかというのが、いろんな取り組みがあつていいかなと思うのです。いろんな選択肢があつて、どこまでできるのかというのがありつつも、こんなことができる、あんなことができると思う一方で、園となってくると、公立、日野町の園としての理念というのがあると思うのですよ。そこが全然違うところを見に行っても、やっぱりそれを取り入れるか。経営理念とか方針とかが違うところを見てしまうと、日野町としてどれが一番大事なのかというところがブレてくると思うのです。園を見に行くのであれば、日野町としてどのようなところに柱を置いて取り組んでいくべきなのかというところをしっかりと通されたうえで、それに応じた、それに近いというか、その柱に沿った、本当に魅力的な運営とか園のことをやっておられるところに見に行くという方が、まだイメージもつきやすいのかなと思うところがあります。

行政としてできるところはやったほうがいいし、園としてのところはしっかりと日野町としてのポイントを抑えたうえで、それに応じたところを見に行く方がいいのかなと。いろんな意見を見て、聞いて、いいなと思うのは誰しもいいと思うのですけれども、それをまとめるとなってくると、じゃあやっぱりあちらの取組がよかったねとなって、もう1回見に行くかとなると、それもタイムロスというか、言い方は悪いかも知れないですが、そのこのところをしっかりと抑えたうえで行く方がいいのかなと思います。

○委員長

ありがとうございます。日野町の幼児保育の方針は策定されているものがありますので、もちろんそれに沿って行きたいと思っています。

もう1つ、どれを取り入れたらという話ですけれども、自治体で助成をやっているところだと選ぶ余地があるのですが、自治会が引っ付いている事例は日本全国探しても全然あがってこないの、正直、検索で上がってくるところはとりあえず見てこないと話が始まらないという、今そんな検索状態です。

そうじゃない場合に対しては全くもっておっしゃるとおりで、日野町のポリシーに則って行きたいと思っています。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

今日欠席の委員から、出席できないので代わりに意見を報告しておいてほしいという要請がありましたので、それを皆さんにお配りさせていただきます。

(資料配布)

○子ども支援課長

〇〇委員から、これまでの経過と今後の思いをまとめていただきましたものです。

○委員長

こちら、私も今初めて見る状態ですけれども、今日の時点において懇話会で見てほしいとのことでしたので、お配りさせていただきました。

私の方で答えられることはお答えしていきたいと思っております。ありがとうございます。

○子ども支援課長

今日お手元に、中間報告のまとめをお配りさせていただいております。これは3月議会でも報告させていただいたものと同じものでございまして、また皆さんに、懇話会のこれまでの議論でありましたように、各種のワークショップでのご意見をまとめたり、アンケート結果が載っておりますので、またぜひお時間のある時にゆっくり見ていただけたらと思います。福永委員にも先にこれを渡させていただいて、今日のご意見をいただいているところです。よろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。この概要については、前回この場で発表させていただいた内容ですが、そのほか細かいデータなどが書いておりますので、お読みいただいて、疑問点や質問がありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

私の方でまた次に向けて準備をしていきたいと思っておりますし、なぜこれを今日説明しなかったかという、せっかく皆さんに来ていただいているので、読み上げるだけで1時間終わってしまうのは避けたかったので、そういう形はとっておりませんけれども、もしこれについてお気づきの点がございましたら、ぜひご意見をお寄せいただければと思っております。

○委員

昨年の懇話会の時に、私自身に宿題をいただいていたと思うのです。いろいろと意見を言わせてもらった中の1つに宿題をもらっていた件で、私がしっかりとその場で答えられなかった部分があったのです。私にこういったことが課題だよと教えていただいた方を連れて事務局に今日話に行きますので、また事務局から報告があるかと思っておりますので、そういったところの意見も聞いていただきけるとありがたいと思っております。

○委員長

わかりました。またあとで事務局に確認させていただきます。ほか、いかがでしょうか。

(なし)

~~~~~

#### ○委員長

それでは、本日の懇話会を閉じさせていただきたいと思っております。

ワークショップという形を取らせていただきましたが、ご参加いただきまして、ありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。

(閉会)